

「日本から食品事故を無くす」
NPO HACCP実践研究会



【HACCP実践のコツ】 せっかくのHACCPが形骸化してしまったら勿体ない！

=====
今月は、「HACCP実践のコツ」です。当研究会幹事の尾畑氏が、内部監査の際にしばしば見受けられることのある「導入したHACCPが機能不全に陥ってしまう可能性がある事象」について、その内容と対策をご紹介します。せっかく導入したHACCPが形骸化してしまうことは本当に勿体ないことです。このコラムがHACCPに真摯に取り組まれている皆様の一助になりましたら幸いです。

=====
内部監査をしていると、HACCPの運用に改善が必要と判断したケースでよく見られる、いくつかの現象があります。裏を返せば、これらの現象が表れないよう運用するのがHACCPのコツと言えるでしょう。ご自身のところの運用がどうなっているか、内部監査をしているつもりでチェックしてみてください。

はじめにご紹介するのは、経営トップや拠点長によるマネジメントレビューを実施していなかったり、実施していても結論を出していなかったりする現象です。



マネジメントレビューを実施しないと、人員や時間、費用等が無駄になるリスクだけでなく、HACCPが形骸化して経営上のリスクが増大する可能性が高まります。

定期的なマネジメントレビューの実施は、問題点の早期発見と継続的な改善につながります。また、経営層がレビューに参加することで、組織（員）の意識向上とコミットメントが高まります。

効果的なマネジメントレビューには、明確なインプットとアウトプットが欠かせません。インプットとは、内部監査の結果、顧客からのフィードバック、リスク評価の結果、法令改正情報などです。アウトプットとは、改善策の決定、資源の配分、方針や目標の変更などです。

幹事 尾畑賢一

発行：NPO HACCP実践研究会 事務局
〒101-0032 千代田区岩本町1-1-4 サンサイド岩本町ビル2F
TEL:03-5856-2039 FAX:03-5856-2041
e-mail:info@haccp.gr.jp
ホームページ：<http://www.haccp.gr.jp>
ご意見・ご要望をお寄せください。